



INDEX

- 平成 30 年度司法試験合格発表によせて
- 平成 30 年度司法試験合格者 体験記
- 合格者の横顔

● 平成 30 年度 司法試験合格発表によせて ●

平成 30 年度司法試験において、鹿児島大学法科大学院の修了生 2 名が合格しました。

鹿児島大学法科大学院が、募集停止をして 4 年を過ぎ、閉校後約 1 年半を経過しましたが、努力を積み重ね目標を勝ち得た二人には心よりお祝いを伝えたいと思います。合格に向け、艱難辛苦と闘う姿を見てきた者として、心からうれしく思います。これで、鹿児島大学法科大学院の「地域に学び、地域に貢献する」というミッションの下で学び、司法試験に合格した修了生は 25 名になりました。そのほとんどは地方と呼ばれる地域で活動し、その理念を体現する活躍をしており、頼もしく思っています。

加えて、今年は、本学法文学部法政策学科（当時）における法曹志願者のための授業科目を履修したり進学指導を受け、他の法科大学院に進学、司法試験に合格した方も 2 名おられます。鹿児島大学では、現在の法経社会学科法学コースでも、こうした法曹になりたいという学生への支援につき、当センターの活動を含む法科大学院の教育資産を糧としてさらに充実した体制で取り組んでいます。そうした意味で、今年の結果は、今回思いが届かなかった修了生のみなさんをはじめ、中高生のみなさんを含む、これ

から鹿児島で法曹を目指そうとするみなさんにも、今後に向けた励みになるものと信じています。

当センターでは、法曹志願者はもちろん、様々な法律実務に関わるリカレント教育（専門職能の高度化や学び直し）にも取り組んでいます。

今後も法曹志願者一人ひとりと向き合い、また、広く法を学ぼうとする皆さんにできる限りのサポートをしたいと考えています。お役に立つことがあれば、是非連絡をいただければと思います。ホームページやフェイスブックで情報を発信しますので、今後進路を変更する場合でも、是非、つながりを維持してもらえればと思います。

みなさまにおかれましては、今後とも鹿児島大学の法学分野の教育研究へのご理解とご支援をいただければ、ありがたく存じます。よろしくお願いいたします。

鹿児島大学司法政策教育研究センター長
元・鹿児島大学大学院司法政策研究科長
米田 憲市

● 平成 30 年度司法試験合格者 合格体験記 ●

松田 直行さん



簡裁訴訟代理等能力認定考査（司法書士が簡裁訴訟代理等を行えるようになるために受ける試験）を福岡で受け、鹿児島へ帰るバスの中で、これで試験から卒業だ…と何とも

言えない解放感に浸ったことを思い出します。数年後にまさか司法試験を目指すことになるとは思ってもみませんでした。

私にとって、鹿児島大学法科大学院への入学は大変嬉しいことでした。中学・高校生時代の私は部活動に夢中でおおよそ勉強などしなかったため、全科目をやらなければ受験できない国立大学に自分が入ることなど想像すらしませんでした。そのような私が大人になってから、大好きな鹿児島の国立大学、しかも大学院！で勉強の機会に恵まれたのですから、幸せ以外の何ものでもありませんでした。

しかし、法科大学院での現実には甘くありませんでした。当初、私は司法書士をしながら大学院生活を送ろうと思っていたのですが、授業や課題が自分の想定をはるかに超えるものであったため、すぐに司法書士の登録を抹消して大学院の勉強に専念しました。

また、同期入学の二人は九州大学出身の優等生で、二人の勉強に対する真摯な姿勢からは大いに刺激を受けました。

4 月に入学して 1 か月ほど経ったころ、法科大学院の院生全員に招集がかかりました。何かな？と思って行ってみると、次年度からの入学者の募集停止が発表されました。まさに青天の霹靂。先生方の無念さを痛感しましたし、私自身としても鹿児島に法曹を志す者のための学び舎がなくなることが残念でなりませんでした。全国から勉強が進んだ者が集まる都市部の法科大学院と、まさに字義通りの未習者がほとんどである地方の法科大学院を同じ基準で判断して優劣をつける国のやり方に疑問を感じざるをえませんでした。

私たち 11 期生は、期せずして鹿児島大学法科大学院の最後の学生となりました。私たち法科大学院生にとって、自らを司法試験に合格させることが最優先課題ですので、制度云々を言っている余裕はありません。募集停止の発表があった次の日からは気持ちを切り替え、目の前の授業に心を向けました。

何とか院での初めての期末試験を乗り越え、夏休みには鹿児島地方検察庁での体験プログラムに参加しました。検事正への挨拶の後、検察官の仕事についての説明を受けたり、被疑者取調べの体験をさせていただき、検察官の仕事垣間見ることができました。全人格をかけて仕事なのだということが強く心に残りました。懇親会では特捜経験の長かった方のお話を伺える

など、大変興味深い体験でした。

2 年次の夏休みには、エクスターンシップとして弁護士事務所です 1 週間お世話になりました。法律相談や弁護士会の委員会に同席させていただくなど、将来の自分の仕事を身近に感じることができました。お昼ごはん後に先生方と事務員の方の皆が一室で談笑するという大変温かい雰囲気の仕事所でした。お忙しい中、温かく受け入れていただき大変ありがたかったです。近い将来に合格を報告しに事務所の敷居を再びまたぎたいと思うようになりました。

2 年次 11 月の鹿大学園祭、2 年次後期試験後の屋久島では、リーガルクリニックとして、弁護士の方に後からフォローしていただく形で、自らが法律相談に応じました。上手く応えられた相談も中にはありましたが、事実関係の把握すらままならなかったもの、返答が不十分なし誤ったもの、専門性が高く弁護士の先生に全てを応えてもらったもの（交通事故事案）など、1 つ 1 つの相談が勉強になりました。様々な先生方に同席していただいたので、様々な相談スタイルを見ることができました。中には、相談者の目がうるむ場面もあり、相談者の苦しい思い、悔しい思いをくみ取ることでできるような法律相談をできるようになりたいと思いました。

平常の授業に加え、院の先輩方が合格していく様子や、上記のような経験を 1 つ 1 つ積み重ねていくうちに、遠い存在であった法曹が身近なものとなり、いつしか自分も法曹の一員となるのが当然のように感じるようになっていきました。

院での先生方からのご指導を受けなければ私の司法試験合格はあり得ませんでした。それと同時に、チューター指導等でご指導いただいた弁護士の方々からの多々のアドバイスも大変有用でした。事務の方々にも様々なことを補助していただきました。受験時代も変わらずに接してくれた友人や、陰ながら応援してくれた友人・家族、これまでに私を導いてくださった方々、全ての方々のおかげで司法試験に合格することができました。法曹となるにはまだ司法修習が残っていますが、これまでどおり研鑽を重ねていきたいと思っています。

鹿児島大学法科大学院で学べて本当に幸運でした。ありがとうございました。

田丸 啓志さん

1. 司法試験を目指す学部生の皆様(とりわけ本格的な受験勉強をまだ始めていない方)



私も皆様と同じように学部時代から司法試験を目指し、合格者報告会などにも参加しておりましたが、それにもかかわらず高校卒業から司法試験合格まで約9年かかりました。それはなぜかと考えたところ、学部時代、「〇年後、司法試験に合格する」という気持ちを本気で持てなかったことにあるのかなと思います。「なんとなく数年後には司法試験に合格しよう」というような軽い気持ちだったのかもしれませんが、言い訳かもしれませんが司法試験を目指す学生が周りに少なく、現実味がわかず、自分のこととして対策に出ることが遅れてしまったと思っております。

早く合格したいと思われる方にはできる限り早く合格してほしいです。そのためには「〇年後、司法試験に合格する」という気持ちを本気で持っていたいただきたい。そして、予備試験、法科大学院経由いずれでも、合格のために必要な情報を集めて、合格する年までの計画(できるだけ細かく。)を策定、実行してほしいです。学部時代はあっという間ですので合格に必要なことに力を注いで下さい。「学部時代は、サークル、バイトなどいろいろなことに挑戦しなさい」という方がいます。もちろん様々な経験が人生を豊かにするでしょう。しかし、予備・LS入試の受験生は、司法試験合格に向けた自分の計画が実行されていることがそれら様々な活動をする前提であるべきだと思います。

合格に必要な情報は多ければ多いほどよいというものではないですが、有益な情報には常にアンテナを張っていてほしいと思います(適宜計画を修正して合格可能性を高める)。情報源としては、まず、大学教授の方々にどのように論述を展開すべきかという各科目の特性などについて話を聞きに行くことが考えられます。また、インターネットでも司法試験についての有益な情報はあります。そして大事にしていたきたいのが同じ目標を持つ先輩後輩、同期と

のつながり、情報交換です。人数が少なくとも本気の受験生が集まれば大きな力になると思います。

以上は私が学部時代にできなかったことで、できなかったことを後輩の皆様へ「すべき」というのはどうかと思いますが、私が学部時代に戻れるなら聞きたいと思う内容ですので参考にさせていただければと思います。

2. 来年の司法試験合格を目指す皆様

まず、来年合格するとの強い気持ちを持って、自分自身の勉強方法を信じてやり抜いていただきたいです。特にロースクール修了生の方々は既に自分の勉強方法が固まりつつあると思います。そのやり方はこれまで多くの方から情報を集めてご自身なりに悩みに練り上げた勉強計画で、大方合格の推定の働く学習方法なのだと思います。その方法を信じてやり抜くことが(適宜計画を修正しながら)、本番でも強い気持ちで解ききることにつながると思います。私も、学習方法には最後まで「これでいいのか」という悩みがつきまといましたが、今年合格して、勉強方法は本当に人それぞれで、あとはそれをやり抜くことが大事なのだと思うようになりました。

同じく勉強計画の話ですが、私は起案をどれくらいやればよいのか悩みました。合格者の中には「最後の年は毎日起案していた」や「1日2通以上起案していた」という方もいます。他方で私は多くても週に4通ほどで、複数回受験生の中では少ない方ではないかと思っております。インプットとアウトプットの兼ね合いは難しいですが、知識面と処理能力(処理感覚)が模試や本試験にピークが持ってこられるようなしっくりくる計画をご自分で立てるのが良いかと思っております。したがって起案の量も人それぞれなのだと思います。

次に科目特性の話ですが、私は過去問分析を通じて各科目の特性(どのように論述を展開すべきか)を知り、起案でそれを実践することが重要だと感じました。起案の量をこなすことが目的ではなく、科目特性を知り、次それを実践することが重要だと思います。基本書や百選の網羅的な知識を有していることよりも科目の特性に応じて論述する能力の方が重要かなと思います。網羅的に知識を理解し記憶することは

極めて困難ですし、仮にそこが出題されても多くの受験生は書けず差がつかないと思われるからです。それよりも、分からない問題でも科目の特性に従って論述することが、出題者の題意に込んでいると高評価されるのかなと思います。

私は、これまでの合格した先輩方の合格体験記を見て「先輩についていく」気持ちで勉強してきました。先輩の体験記やメッセージが私を奮い立たせてくれました。今は合格するかどうか不安でいっぱいかもしれませんが、この体験記が少しでも皆様の参考になれば幸いです。どうか今を乗り越えて、来年合格を勝ち取っていただきたいと思っております。

3. 終わりに

学部時代、司法試験に合格するというのは本当に雲の上の物事で、それをつかみとるのは夢のようなことに思っておりました。しかしながら、それがだんだんと自分の近くに感じられ、現実のここのように思え、最終的につかみとる

ことができました。これは、鹿大LS設立に尽力された方々、授業やゼミを展開された先生方、実務家の皆様、組織を支えてくださった大学スタッフの皆様、そして受験と一緒に戦った先輩、仲間の存在があつてこそです。多くの方に支えられ合格することができました。これまで本当にありがとうございました。

HP 紹介

鹿児島大学司法政策教育研究センターのホームページ・Facebookがあります。

過去の活動報告はもちろん、今後のイベントなど随時更新しておりますのでぜひご活用ください。

【ホームページ】

<http://lawcenter.ls.kagoshima-u.ac.jp/>

【Facebook】

<https://www.facebook.com/kulscenter/>



● 合格者の横顔 ●



松田 直行さん

- ◆ 出身大学、学部・学科、経歴
中央大学法学部政治学科卒業
平成22年司法書士登録
- ◆ 法曹を目指したきっかけ
より深く法的解決に関わることができるようになりたいと思ったため
- ◆ 受験中一番つらかったこと
時間に追われながらの課題との格闘
- ◆ 息抜きの方法
体を動かすこと、銭湯に行くこと
- ◆ 得意科目
特にありませんが、客観的には民事系が得意、公法系が不得意ということになるのかなと思います



田丸 啓志さん

- ◆ 出身大学、学部・学科、経歴
熊本大学法学部法学学科卒業
- ◆ 法曹を目指したきっかけ
様々な社会問題に触れるにつれて、悔しい思いをしている人の助けになりたいと感じたこと
- ◆ 受験中一番つらかったこと
合格するかという不安な気持ちを常に抱えこんでしまっていたこと
- ◆ 息抜きの方法
おいしいものを食べること
- ◆ 得意科目
ありません。憲法、行政、刑事訴訟法が好きです